2.6 海藻草類（全域の状況監視）

表-2.6.1　環境監視調査の項目及び手法の概要

区分	計画の概要
調査項目	・海藻草類（クビレミドロを含む）の生育被度、生育状況等
調査地点・範囲	・環境影響評価において現地調査を実施した区域（松田地先～嘉陽地先）のうち、事後調査で実施するライン調査及びスポット調査を補完する位置（図-2.5.1）。 ・クビレミドロについては、これまで生育が確認されていた久志地区等の干潟域で実施。
調査時期・期間	・海藻草類は、工事期間中、海藻草類の繁茂期及び衰退期の年2回実施。 ・クビレミドロは繁茂期である春季とし、干潟上の生育状況の把握に適した大潮期に2回実施。
調査方法	・海藻草類は、マンタ法により調査船に曳航された潜水調査員が海底を目視観察し海藻草類の生育被度、生育状況等を定性的に記録する。 ・クビレミドロは、干潟上を踏査により目視観察し、クビレミドロの生育範囲、生育被度を記録する。
備　考	―

表-2.6.2　環境影響の程度が著しいと判断する基準の概要

区分	計画の概要
環境監視基準	・環境監視調査の結果は、事後調査の結果を解析する際の参考データとして整理する。
備　考	―

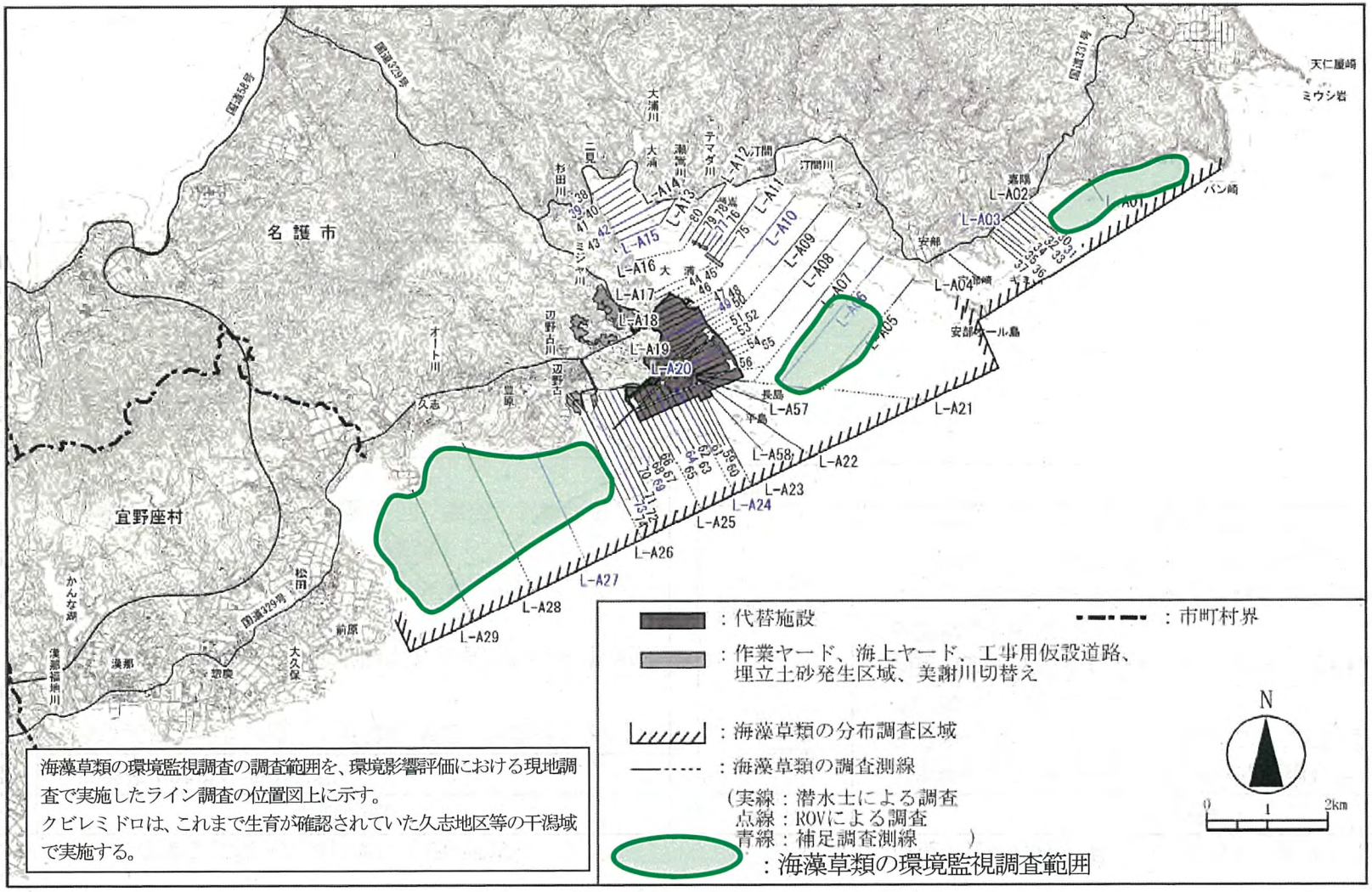

図-2.6.1　海藻草類の環境監視調査範囲

2.7 陸域動物（鳥類等）

表-2.7.1　環境監視調査の項目及び手法の概要

区分	計画の概要
調査項目	・鳥類等の営巣状況の確認
調査地点・範囲	・事業実施区域及び直近で営巣を確認した箇所とする。（図-2.7.1）
調査時期・期間	・調査は工事直前から工事期間中の繁殖期間（主な繁殖期は春季から初夏）に実施。 ・カラスバトは繁殖期が秋季から冬季とされていることから、秋季から冬季にかけて確認する。 ・営巣が確認される場合は週 1 回、繁殖・営巣状況を確認する。
調査方法	・工事前に工事区域及びその周辺の事前踏査を行い、重要な鳥類の繁殖や営巣を確認した場合、工事騒音を測定し、その測定値が 70dB 以上となった際は、繁殖状況や行動を双眼鏡や望遠鏡（スポッティングスコープ）を用いた目視観察により観察し記録
備　考	―

表-2.7.2　環境影響の程度が著しいと判断する基準の概要

区分	計画の概要
環境監視基準	・工事騒音が 70dB を超える範囲内で確認した重要な鳥類の繁殖状況や行動状況が、騒音によって回避行動が頻繁に認められた場合とする。
確認・対応の方法	・回避行動が認められる判断は、適宜、専門家等の意見を聴取し判断する。 ・また、判断基準の超過が確認された場合の対応としては、確認した繁殖地近辺での 70dB を超えるような作業を一時中断するなど、必要な対策を講じる。
備　考	―

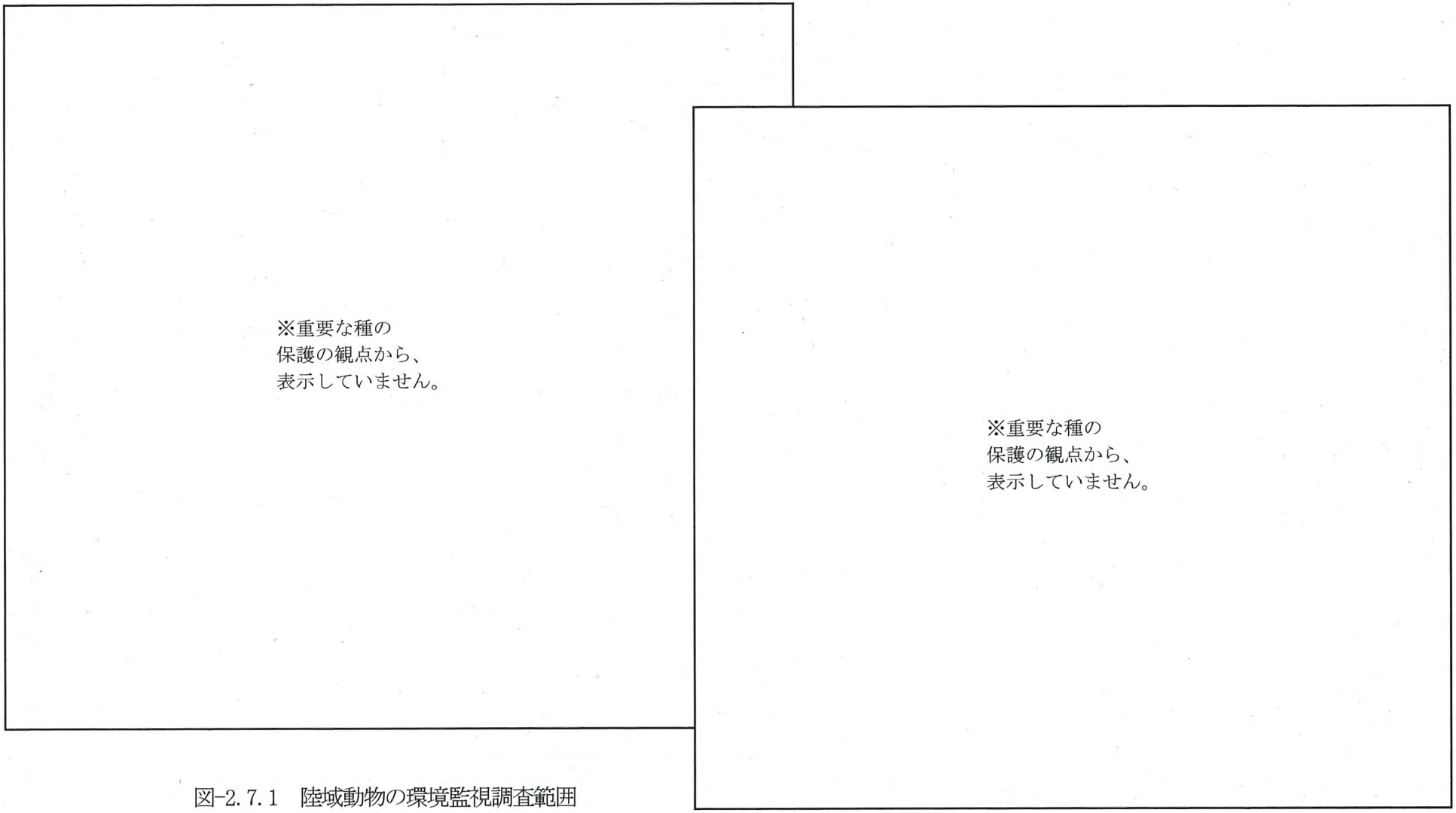

図-2.7.1　陸域動物の環境監視調査範囲